

## 利用状況調査

### 1. 利用者数調査

#### (1) カウンターによる利用者数調査

平成15年度より実施している入山者数調査を、平成18年度も継続して行った。データの分析対象期間は、H18年4月19日～11月30日の延べ226日間、月別の調査結果、およびデータ無効日等は下表の通りである。年間の平均入山カウント数は、261人/日で、平成17年度の296人/日よりやや少なくなっている。

表1 対象期間における月別カウント数

			H18								総計
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	
入山カウント数 No.7+No.9+No.11+No.13+No.15			1,421	7,606	3,608	5,134	6,336	5,052	16,170	8,538	53,865
西 大 台	No.1	開拓分岐 入	75	258	234	300	421	139	898	371	2,696
	No.2	開拓分岐 下	74	186	259	404	967	139	802	279	3,110
	No.3	経ヶ峰分岐 入	82	337	223	379	511	338	1,033	344	3,247
	No.4	経ヶ峰分岐 下	113	296	234	436	908	196	671	208	3,062
	No.5	七ッ池登山道 入	78	279	206	332	375	273	671	323	2,537
	No.6	七ッ池登山道 下	120	222	198	439	852	167	319	164	2,481
	No.7	ナコヤ谷登山道 入	73	296	258	303	455	340	1,050	428	3,203
	No.8	ナコヤ谷登山道 下	133	284	242	487	979	228	617	262	3,232
	No.9	中ノ谷木橋登山道 入	106	297	128	232	176	88	370	228	1,625
	No.10	中ノ谷木橋登山道 下	63	269	180	236	374	264	721	289	2,396
東 大 台	No.11	ソカガ谷登山道 入	188	1,429	814	672	804	776	1,677	1,270	7,630
	No.12	ソカガ谷登山道 下	697	3,727	1,464	1,886	1,996	1,956	4,969	3,598	20,293
	No.13	日出ヶ岳登山道 入	924	4,702	1,893	3,234	4,008	3,239	10,903	5,696	34,599
	No.14	日出ヶ岳登山道 下	378	2,161	932	1,425	1,952	1,725	5,140	2,533	16,246
	No.15	中道登山道 入	130	882	515	693	893	609	2,170	916	6,808
	No.16	中道登山道 下	368	2,645	1,351	1,786	1,958	1,652	7,074	2,787	19,621

注1) 「入」は入山者数、「下」は下山者数を示す

注2) 4月は12日間(4/19～30)の値

#### 分析対象期間およびデータ無効日

- ・ 分析対象期間：H18年4月19日～11月30日(延べ226日間)
- ・ バッテリー定期交換日：5/25、6/22、7/19(21)\*、8/21、9/19、10/16(延べ6日間)：全基  
※7月の定期交換は作業中の天候不順のために2回に分けて実施した。
- ・ カウンター動作不具合による記録もれがあった日は以下の通り
  - ① 動作不具合：5月19日～25日(延べ7日間)：カウンターNo.11、12、13、14、15、16
  - ② 動作不具合：5月23日～25日(延べ3日間)：カウンターNo.1、2、5、6、7、8
  - ③ 動作不具合：6月19日～21日(延べ3日間)：カウンターNo.1、2
  - ④ 動作不具合：8月13日～21日(延べ9日間)：カウンターNo.11、12
  - ⑤ 動作不具合：8月16日～21日(延べ6日間)：カウンターNo.13、14
  - ⑥ 動作不具合：8月20日～21日(延べ2日間)：カウンターNo.15、16
- ・ 大台ヶ原ドライブウェイの通行止め実施日(雨量交通規制)：10/6(延べ1日間)

#### ◆西大台地区の入山者数

西大台地区の入山者数については、従来、No.7とNo.9の合計としていたが、カウンター記録とツアーやイベントの記録とを比較検討した結果、経ヶ峰や逆峠等から入山する利用者数も無視できないことが分かった。

そのため、平成18年8月22、23日の高校総体「登山競技」の場合のように、利用者数が大きく、ま

た数が明確に把握できる場合には、カウンター数に加えて補正することとした。

平成 18 年度の西大台地区における月別の利用者数を次表の通りである。西大台地区への入り込み数は、年間総計で、5,561 人、1 日辺りの平均入山者数は 25.6 人/日で、平成 17 年の 23.4 人/日よりも、若干増加した。

また、最大ピーク日は、平成 18 年 11 月 3 日（金）で、182 人であった。（平成 17 年度は 169 人が最大）また、最も利用が多かった 10 月平均で 49 人/日であった。（平成 17 年度は 43 人/日）

表 2 西大台のカウント数と対象日数（月別）

月	カウント数	対象日数	平均(人/日)
4月(4/19~30)	179	12	14.9
5月	674	28	24.1
6月	386	29	13.3
7月	535	30	17.8
8月	1280	30	42.7
9月	431	29	14.9
10月	1420	29	49.0
11月	656	30	21.9
総計	5,561	217	25.6

注) 8月のカウント数には 8/22・23 の高校総体の参加者 416 名分を追加

西大台の入山者数を曜日別にみると、土日祝の平均値は平日の 2.6 倍となっており、土日祝における利用の集中が見られる。ただし、平成 17 年度の平均値と比較すると、土日祝と平日との差が小さくなっている。

表 3 西大台のカウント数と対象日数（曜日別）

		カウント数	対象日数	平均(人/日)
H18	土日祝	3,067	70	43.8
	平日	2,494	147	17.0
	総計	5,561	217	25.6
H17(参考)	土日祝	3464	72	48.1
	平日	1552	134	11.6
	総計	5016	206	24.3

注) 平成 18 年 8 月のカウント数には 8/22・23 の 416 名分を追加して算出

注) 分析対象期間：H17 年 4 月 28 日～11 月 30 日、H18 年 4 月 19 日～11 月 30 日

## (2) 団体利用状況把握調査

### 1) 大台ヶ原ツアーバスの入込現況の把握

毎日 12 時前後に、大台ヶ原駐車場に停車しているツアーバスについて、ナンバープレートの地名、バスの種類（大型・中型・マイクロ）のほか、車両への掲示情報から主催者、ツアー名、人数等、把握可能な情報を記録した。調査期間は平成 18 年 4 月 22 日（土）から平成 17 年 11 月 29 日（水）までの延べ 222 日間である。

表 4 来訪したバスの総数（バスの種類、月別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	総計
大型	4	16	8	15	17	5	32	2	99
中型	7	63	11	38	46	16	132	41	354
マイクロ	0	7	8	2	4	4	10	2	37
総計	11	86	27	55	67	25	174	45	490

ツアーバスの総数は 490 台であり、月別にみると最も多いのは 10 月（174 台）であった。大型、中型バスの 10 月への集中度が非常に高く、10 月には利用者に占めるツアー客の比率が上昇していることが明らかとなった。平成 17 年度調査と比べると、バスの総数は大きな変化は無いが、大型バスの割合が減り、中型バスの割合が増加する傾向がみられた。

### 2) インターネット等の広告による団体ツアーの実施状況の把握

毎月 2 回（1 日・15 日）、インターネットで 18 団体（旅行社 12 団体、交通事業者 5 団体、自然学校 1 団体）を対象として、ホームページや、チラシ、パンフレット等を検索した。調査期間は平成 18 年 5 月 15 日～11 月 30 日の約 7 ヶ月間である

平成 18 年には、大台ヶ原全体で上記の 18 団体により 226 件のツアーが企画されている。全体の 68.1%（154 件）が 9 月～11 月の秋に開催されている。

表 5 季節別・曜日別のツアー開催回数（平成 17 年・平成 18 年）

コース	平成17年度				平成18年度			
	西大台	東大台	不明	計	西大台	東大台	不明	計
春(4～6月)	8(7)	62(41)	6(5)	76(53)	2(0)	16(12)	10(7)	26(19)
夏(7～8月)	15(8)	31(16)	0(0)	46(24)	5(5)	36(36)	5(5)	46(46)
秋(9～11月)	28(15)	75(43)	6(6)	109(64)	6(5)	135(135)	13(12)	154(152)
計	51(30)	168(100)	12(11)	231(141)	13(10)	187(183)	28(24)	226(217)

※インターネット、チラシ等への掲載情報を定期的に記録・集計したものであり、大台ヶ原を対象とした全ての企画を網羅するものではない。

※（ ）内は土日祝の開催回数を示す。「不明」は東大台、西大台の明確なコース標記が無かったもの。

※ 人数不足や天候等によりツアー不催行の可能性が考えられるが、全て実施されたと想定して集計している。

※ 平成 17 年調査は平成 17 年 7 月 1 日～12 月 31 日の 6 ヶ月間に同様の手法で実施。平成 17 年は大台ヶ原全体で 23 団体（旅行社 15 団体、交通事業者 4 団体、自然学校 1 団体、自治体 1 団体、その他 2 団体）により 231 件のツアーを確認した。

平成 18 年度開催ツアーの 86.3%（195 件）が日帰りであり、宿泊型ツアーとしては、1 泊 2 日型が 5.3%（12 件）、2 泊 3 日型 4.9%（11 件）、3 泊 4 日型および 4 泊 5 日型がともに 1.8%（4 件）となっている。

H18 年度開催ツアーのうち、明確に「ガイド」の同行を謳ったものは 8.8%（20 件）であった。特に西大台を対象としたツアーをみると、46.2%（13 件のうち 6 件）で、ガイドが同行していた。

## 2. アンケート調査

### 2-1. 調査の方法

#### (1) 実施方法

平成18年10月の2日間、西大台地区周回線歩道の駐車場側入口に調査員を配置し、対面アンケート方式による調査を実施するとともに、希望者にはアンケート票を持ち帰ってもらい、郵送による回収を行った。また、10月8日～10月22日の間、大台ヶ原山上の飲食・宿泊施設2ヶ所にアンケート票と回収箱を設置し、留め置きアンケート形式による調査も合わせて実施した。

表1 実施日・方法およびサンプル数

実施日	天候	方法	サンプル数
平成18年10月8日(日)	曇りのち晴れ	対面方式	37
		郵送方式	13
平成18年10月22日(日)	曇りのち晴れ	対面方式	16
		郵送方式	23
平成18年10月8日(日) ～10月22日(日)	—	留め置き方式	21
合計			110

#### (2) 質問内容

西大台地区における利用状況や利用者の目的意識、満足度や魅力資源等について把握し、利用調整地区指定後の利用の変化について検討するための基礎とすることを目的とし、下表のような項目についてアンケート調査を実施した。

表2 アンケート項目

アンケート項目	内容
利用者属性	・年齢 ・性別 ・居住地 ・グループ構成
交通手段等	・利用した交通手段
来訪経験	・来訪経験
来訪目的	・西大台地区への来訪目的
利用ルート	・入山口 ・利用ルート
行動内容・利用マナー	・行動内容および地点(休憩、昼食、トイレ等) ・問題行動の目撃
問題箇所および歩道や標識等に関する意向	・歩道・登山道の問題箇所 ・歩道・標識等に関する意見
満足度等	・利用者の数(静寂性) ・満足度
魅力資源・魅力地点	・西大台の魅力資源 ・魅力地点
再訪意向等	・再訪意向 ・利用形態に関する意向
ガイド制度に関する意向	・ガイドの利用経験 ・ガイドの内容、料金に対する意向
利用調整地区に関する意見	・制度の認知度 ・自由意見

## 2-2. 調査結果の概要

### (1) 回答者及び来訪グループの属性

#### 1) 来訪者の属性

今回のアンケートの回答者は、男性が54.5%と若干多い。年齢層では、50代が最も多く、次に60代、40代が多くなっている。回答者の年齢層を、大台ヶ原の来訪者全体に対するアンケート結果と比べると（公共交通の利用促進に関するアンケートの結果参照）、20代、30代が少なく、50代、60代が多くなっている。このことから、大台ヶ原の利用者の中でも、西大台の利用者は、若い世代が比較的少なく、中高年以上の利用者が多い傾向があると考えられる。

また、居住地については、大阪府および奈良県で全体の6割以上を占めており、このような傾向は、大台ヶ原の来訪者全体の傾向と概ね一致している。

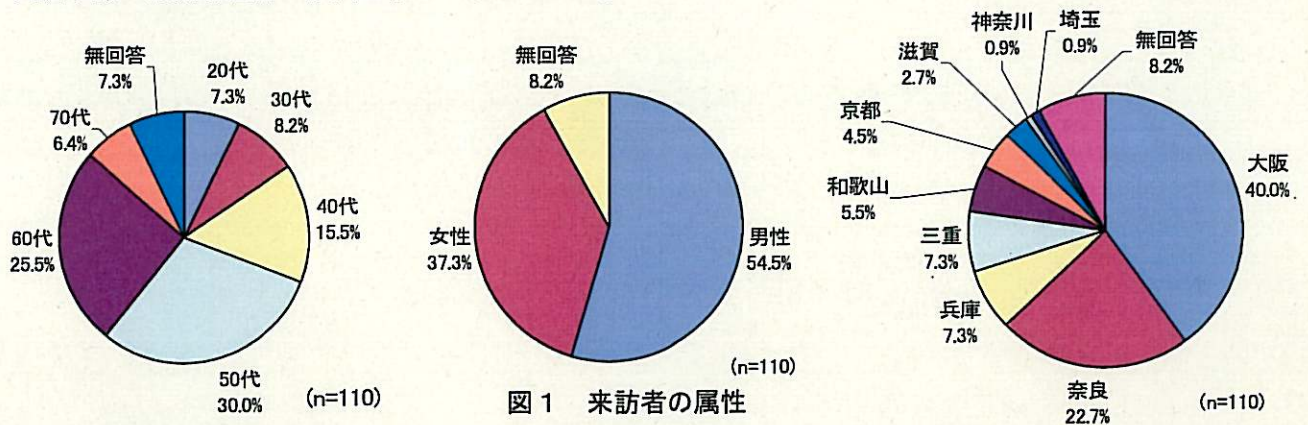


図1 来訪者の属性

#### 2) 来訪グループの属性

家族での来訪が全体の33.6%、友人とが30.9%を占めている。大台ヶ原全体の来訪者と比べると、若干家族の割合が低い傾向がみられる。

グループの人数をみると、来訪グループの平均人数は、4.2人であるが、最も多いグループ構成は2人で、36.4%である。また、5人以下の小規模なグループが全体の71.9%を占めている。

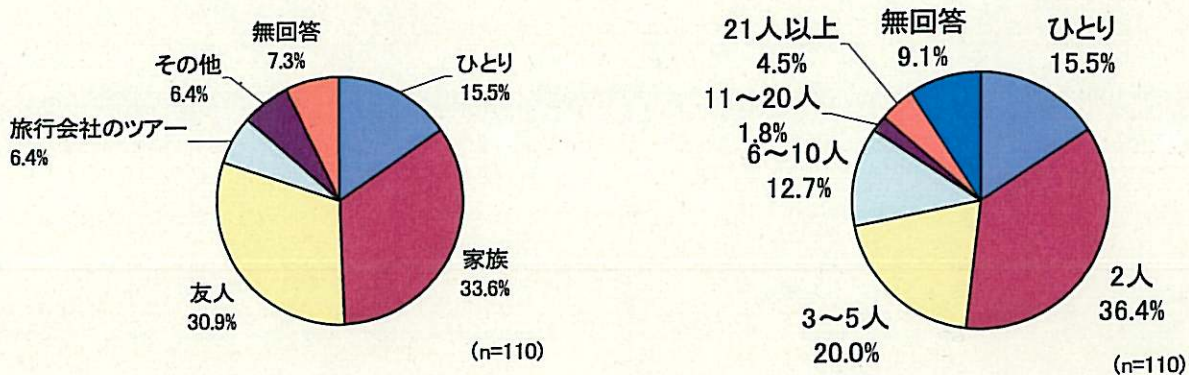


図2 来訪グループの属性

(2) 交通手段

大台ヶ原への交通手段としては、自家用車が最も多く、74.5%を占めており、大台ヶ原の来訪者全般の傾向と概ね一致している。

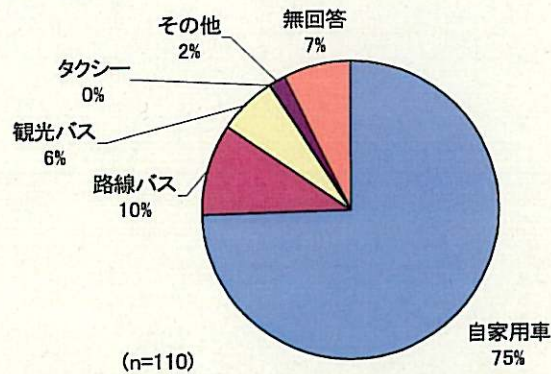


図3 交通手段

(3) 来訪経験

大台ヶ原への来訪経験をみると、以前に西大台に来たことがある人が40.0%、東大台には来たことがあるが西大台には初めて来た人が37.3%を占めており、リピーターの割合が高いことが特徴である。

西大台に来たことがあると回答した人(44人)のこれまでの来訪回数をみると、今回で2回目という人が最も多く38.6%、次いで3~5回目が25.0%、6~10回目が6.8%であった。また、11回目以上という人が、全体の13.6%を占めており、熱心なリピーターも少なくないことが伺える。

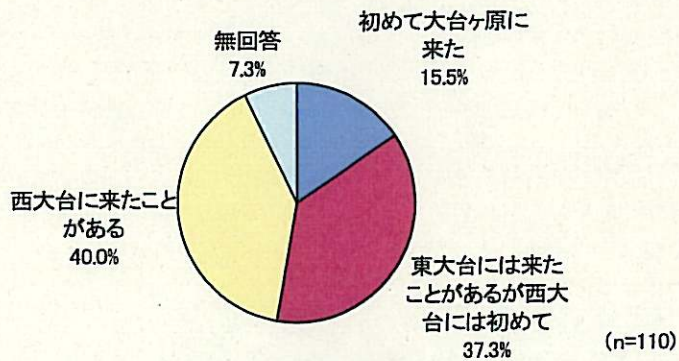


図4 来訪経験

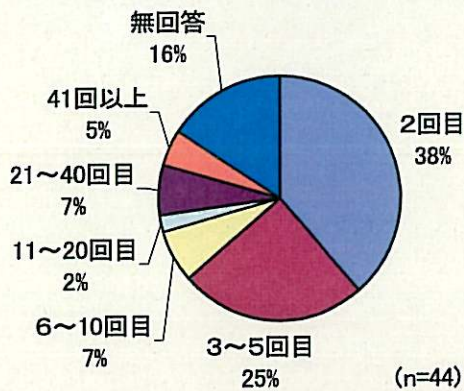


図5 西大台地区への過去の来訪回数

#### (4) 来訪目的

西大台地区への来訪の動機・目的に関する設問（複数選択可）に対し、「登山やハイキングのため」の選択肢を選んだ回答者が最も多く、次に「原生的な自然に触れるため」、「美しい風景を見るため」、「紅葉を楽しむため」などが多かった。

一方、「写真撮影のため」、「植物の観察のため」、「野鳥やその他の生き物の観察のため」などを選択した回答者は、上記と比べるとやや少なくなっている。また、「家族や友人に誘われたから」を選択した回答者は少なく、「ドライブのついでに立ち寄った」を選択した回答者は無かった。

以上より、西大台地区の利用者には、登山・ハイキングなどの明確な目的を持った人が多く、また、原生的な自然に対する意識が高いことが伺われる。また、風景や紅葉などを目的としている利用者も多い。一方、植物や生き物の観察など、より自然に対する意識の高い活動を目的としている人は、比較的少ないといえる。

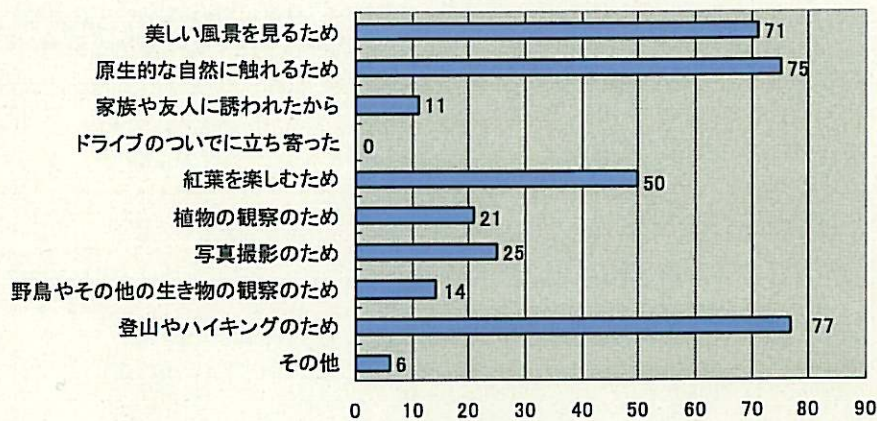


図6 来訪目的

### (5) 利用ルート

西大台地区への入山口としては、山上駐車場からの入山が87.3%と大半を占めていた。一方、経ヶ峰、七ツ池などドライブウェイの途中から入山している利用者もみられた(6.3%)。

利用ルートとしては、周回線歩道を一周するルートが最も多く、全体の70.1%を占めている。その内、北回り・南回りの比率は、それぞれ35.5%、34.6%と、ほぼ同数であった。また、山上駐車場などから入山し、中ノ谷、七ツ池など、途中まで行って引き返した利用者は、全体の20.9%であった。一方、木和田・河合、小処温泉方面や筏場方面からの登山ルートの一部として西大台地区を通過している利用者も、少数ではあるがみられる(3.6%)。

今後の利用調整地区の運営においては、ドライブウェイからの不法な入山者への対処とともに、山麓から登山ルートの一部として西大台地区を通過する利用者もみられるため、こうした利用形態に対する柔軟な対応も必要である。

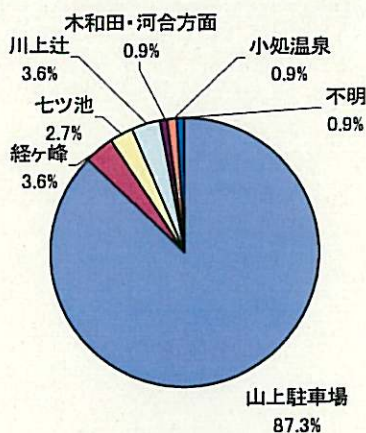


図7 入山口

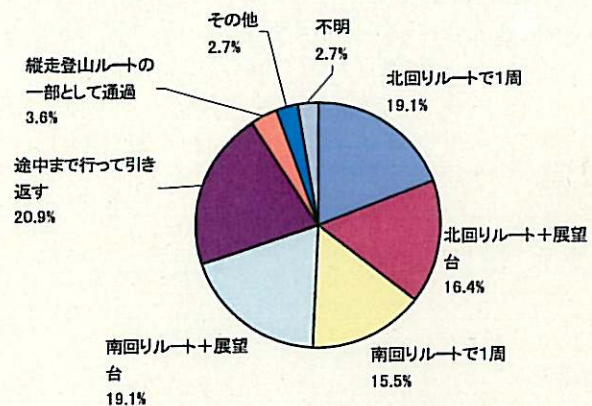


図8 利用ルート

### (6) 行動内容・利用マナー

#### 1) 休憩・昼食・トイレ等の場所

休憩箇所として、最も利用されている地点は、地区を周回する際、折り返し点にあたる開拓跡であった(110人中20人が利用)。次いで、展望台(16人)や七ツ池(14人)などを休憩箇所に挙げる利用者が多かった。

また、昼食の場所としては、展望台が最も多く(14人)、次いで、開拓分岐(6人)、ナゴヤ谷(6人)などが多かった。トイレの場所については、記入している人自体が少なかったが、上記と同様、開拓分岐(6人)、展望台(4人)、中ノ谷(4人)などが比較的多かった。

こうした休憩等の場所は、「魅力的な場所」としても挙げられており(P. 10で後述)、利用者が休憩しながら、風景や自然観察を楽しむ場所である。こうした地点では、集団での滞留による歩道外への踏み込み等が生じる可能性もある。今後の標識等の整備においては、こうした点を踏まえて整備を進める必要がある。



## 2) 問題行動の目撃

利用の際、問題行動を目撃について回答した人は、110人中33人(30.0%)であった。問題行動の中で最も多いのは、歩道外への踏み込みで、22件の目撃が回答されている。

今後、利用調整地区の指定により、利用マナーの徹底が図られ、こうした問題行動の目撃割合も減少していくことが期待される。

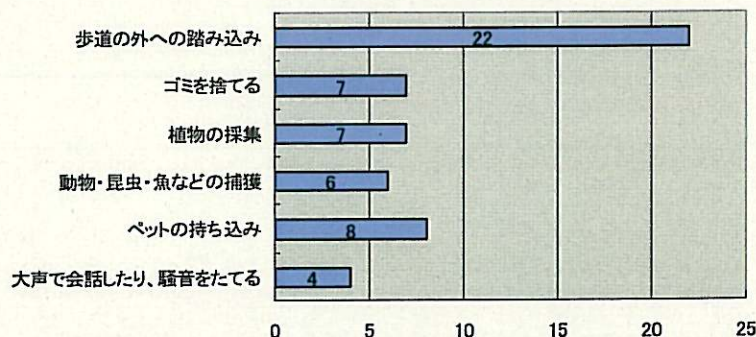


図9 問題行動の目撃

## (7) 問題箇所および歩道や標識等に関する意見

### 1) 問題箇所

西大台地区において、危険や不安を感じた場所に関する自由記述について、16人の利用者の回答があった。内容としては、ルートが不明瞭で道に迷いやすいという指摘が多く、筏場大台ヶ原線との分岐点、ナゴヤ谷から七ツ池にかけての区間、経ヶ峰分岐～開拓分岐間、南側ルートの木橋～分岐点間、などが道が迷いやすい場所として指摘された。

### 2) 歩道や標識に関する意見

歩道や標識に関する自由意見については、110人中61人の利用者から回答があった。内容としては、道に迷いやすいため、標識等の充実を求める意見が多かった。また、標識の内容に関して、地点間の距離や時間を示して欲しいというものが多かった。

また、一方では、西大台には、出来るだけ手を加えず、自然の雰囲気を残して欲しい、標識は最低限でよいという意見も多かった。また、歩道の幅や位置が分かりにくいため、対処が必要であるといった意見もみられた。

西大台地区の問題箇所として、迷いやすいという点を指摘している利用者が多く、現在の標識等を見直し、適切な整備を行う必要がある。その際は、利用者にとっての分かりやすさとともに、自然の雰囲気を阻害しないことに留意し、バランスの取れた施設整備を行うことが重要である。

### <主な意見(抜粋)>

#### ●標識の充実を求める意見

- ・自然をできるだけ残すべきだが、道に迷わない程度の目印、標識はもう少し欲しい。
- ・素晴らしい自然に感動しましたが、道順の標識が分かりにくく、たぶん少人数で来たら道に迷うように思いました。
- ・とにかく標識が少なすぎ迷いました。途中で他のグループから、時間的に前に進んでも帰りが遅くなりますとの助言があり、引き返しました。魅力よりも不安が多く楽しめなかった。初めての人は行くところではない。迷った。
- ・標識が不親切、無さ過ぎる。あれでは迷う。もっと細やかに案内して欲しい。

- ・七ツ池から帰る途中、若い人や写真撮影の人に七ツ池を尋ねられました。七ツ池がまだ存在するものと思い、見に行く人が多いように見受けられます。道標に明記しては如何なものでしょう。又は存在しない事の明記が必要ではないでしょうか。

●出来るだけ手を加えず、自然の雰囲気を残すことを求める意見

- ・標識は最小限で適切な場所にする。同時に自然には出来るだけ手を加えない。
- ・現状の標識で充分。これ以上手を加えない方がよい。原生的自然を残すべき。
- ・あちこちに入り込まないよう、標識は必要だが、あまり親切に分かりやすくし過ぎると、人が大勢入って自然破壊が進むのではないか。

●歩道の幅や位置が分かりにくいという意見

- ・道がよく分からない。幅がはっきりしない。
- ・東大台のように柵を作る必要性は感じないが、入ってよい道を限定して、他の余計な場所へ入らないよう制限すべきだと思う。
- ・初めてで、歩道が分かりにくく、外へ踏み込んでしまった。自然の雰囲気を残すことはとても大切だと思うが、あまりに分かりずらいと、逆に自然が荒れてしまうように思う。

(8) 満足度等

西大台地区の利用者の数に関する感想をみると、「利用者の数は適当だと思った」としている人が最も多く、全体の 66.4%を占めている。また、「その他」を選択した利用者の大半は、自由記述において「利用者は少なかった」等としていることから、西大台では、静寂性に対する満足度は高いといえる。しかし、「利用者が多すぎる」が 2.7%、「やや利用者が多いと思った」が 8.2%みられた。

また、西大台地区の満足度については、「期待通りだった」とする人が 56.4%と最も多く、次いで、「期待していた以上に良かった」が 31.8%で、全体に高い満足度が示されている。

今後は、利用調整地区の運営を通して、西大台地区の静寂性を保ち、さらに満足度を高めていくことが必要である。

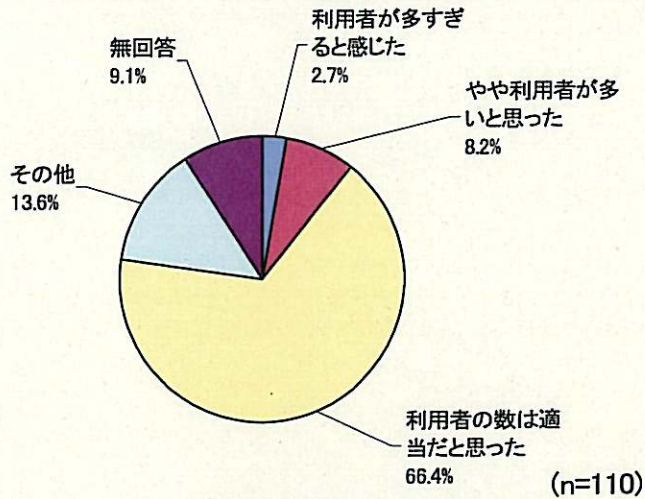


図 10 利用者数に関する感想 (静寂感)

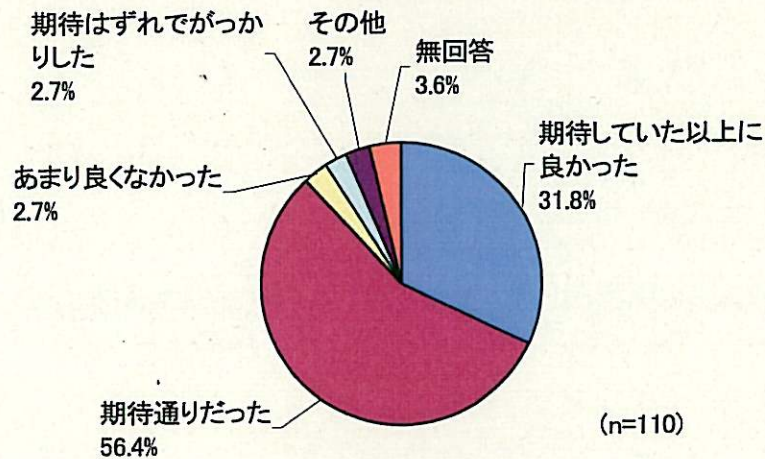


図 11 満足度

(9) 魅力資源・魅力地点

1) 西大台地区の魅力資源

西大台地区の魅力について、14 項目の選択肢（「その他」を含む）から3 項目までの選択を求めた。「その他」を除く 13 項目の選択肢は、下表のとおりである。

項目の分類	項目
自然全体に関する項目	・ 原始的な自然 ・ 神秘的な雰囲気 ・ 幻想的な霧
水辺に関する項目	・ 沢、せせらぎ
植物に関する項目	・ ブナ林 ・ コケ ・ 巨木 ・ 草花 ・ 西大台の植物全般
動物等に関する項目	・ 野鳥 ・ シカ ・ 西大台の生物全般
風景に関する項目	・ 紅葉

魅力として最も多く選択されたのは、「沢、せせらぎ」で、次に「原始的な自然」が多くなっている。また、植物に関する項目としては、「ブナ林」、「コケ」等が特に多く選択されている。一方、動物等に関する項目を選択している人は、比較的少なかった。また、風景に関する項目である「紅葉」も比較的少ないが、調査時期が紅葉時期に、やや早かったことが影響している可能性がある。

以上より、利用者にとっての西大台の魅力資源として、「沢、せせらぎ」や「原始的な自然」が高く評価されていること、また、植物については、「ブナ林」、「コケ」を西大台の魅力として考える人が多いこと、動物については比較的評価が低いこと、等を挙げることができる。

なお、その他として、「神秘的な雰囲気」、「幻想的な霧」、「巨木」、「西大台の植物全般」等が西大台の魅力として挙げられた。

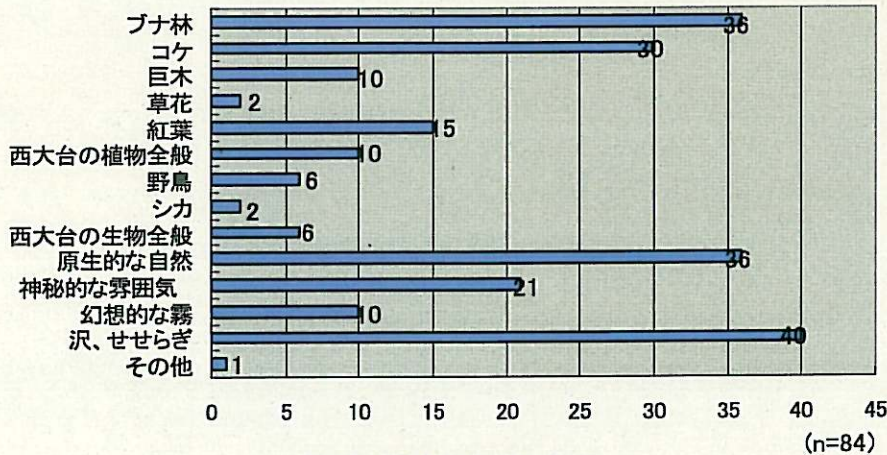


図 12 西大台の魅力資源

## 2) 魅力地点

西大台の中で、利用者が魅力的と感じた場所については、「開拓跡」を選ぶ人が最も多く、次いで、「展望台」、「七ツ池」、「赤いつり橋」、「赤いつり橋～中ノ谷木橋間」、「ナゴヤ谷」などが多くなっている。

「開拓跡」周辺には、西大台の魅力資源として評価の高かったブナ林やコケが多く、また沢なども多いことから、高い評価を得ているといえる。また、大蛇ぐら等への眺望が楽しめる「展望台」や、沢への眺望がみられる「赤いつり橋」などの眺望ポイントも人気が高かった。また、「七ツ池」や「ナゴヤ谷」などの、視界の開けた広場的な地点も人気が高かった。

なお、その他には、「開拓分岐」、「中ノ谷」、「中ノ谷木橋～木橋間」等も、魅力的な地点として挙げられた。

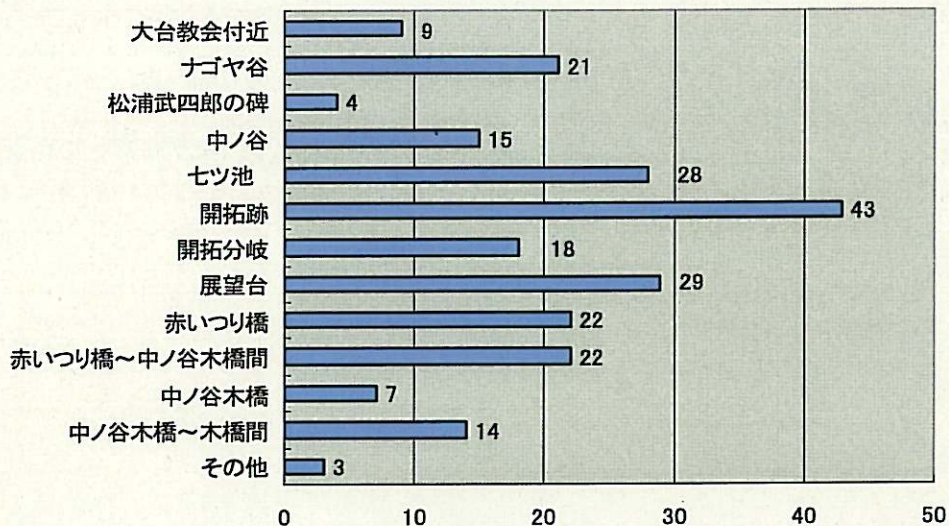


図 13 西大台の魅力地点

## (10) 再訪意向等

### 1) 再訪の意向

「西大台地区にまた訪れたいと思うか」については、75.5%が「はい」と答えており、利用者の再訪への意向は高いといえる。

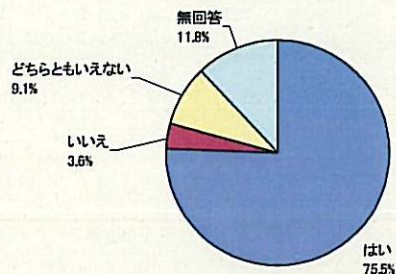


図 14 再訪の意向

## 2) 利用形態に対する意向

西大台地区を利用する際の、望ましい利用形態について、下図の選択肢から選んでもらった（複数選択可）。最も多かったのは、「2～3人での利用」で、次に「10人以内のグループでの利用」となっており、「10人以上のグループでの利用」は非常に少なかった。また、110人中22人が、「ガイドによる自然に関する説明付きの利用」を選択した。

利用調整地区の指定後は、1グループあたりの人数は、10人以下に限定されることになるが、このような人数設定は、利用者の意向とも合致しているといえる。また、自然に関するガイド付きの利用を希望する人も少なくないことから、大台ヶ原におけるガイド制度の確立に向けて、一層と取り組んでいく必要がある。

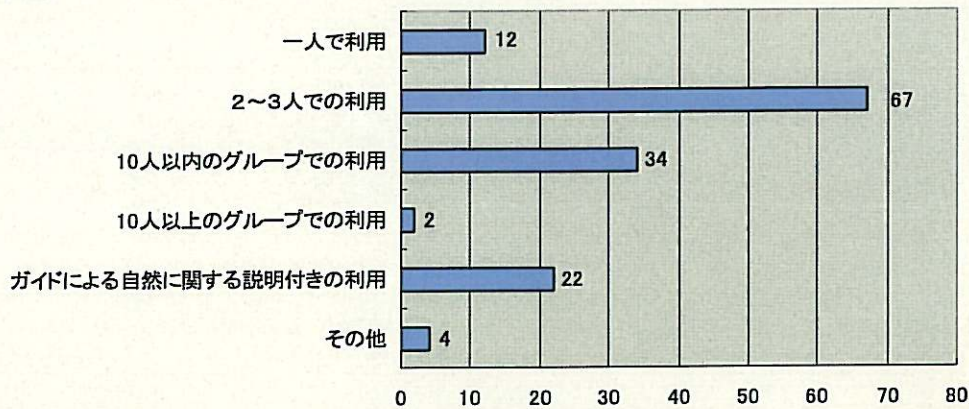


図 15 利用形態に対する意向

## (11) 大台ヶ原におけるガイド制度について

### 1) ガイドの利用経験

これまでに大台ヶ原において、ガイドを利用したことがある人は、全体の10%であり、大半の人は、ガイドの利用経験が無かった。ガイドを利用したことがある11人のうち、利用した場所の内訳は、西大台4、東大台2、両方3、不明2、その際のガイド内容の内訳は、登山ガイド4、自然について専門的に解説してくれるガイド3、友人2、不明2、であった。

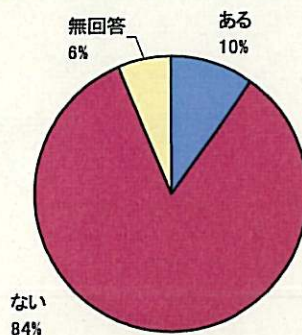


図 16 ガイド利用経験の有無

## 2) ガイドに対する意向

大台ヶ原でガイドを利用するとした場合の希望については、「自然について基本的な解説をしてくれる初心者向けのガイド」を希望する人が37.3%と最も多く、次に「自然についてより専門的な解説をしてくれる中・上級者向けのガイド」が27.3%となった。一方、「本格的な登山を指導してくれる山岳ガイド」を希望する人は少なかった。

以前に西大台地区への来訪経験のある人(44人)と無い人(58人)とで、ガイドに関する希望内容を比較すると、来訪経験の無い人では、初心者向けの自然ガイドを希望する人の割合が若干高くなっている。

また、ガイドを利用するとした場合の、支払ってもよい料金(利用者一人当たり)については、2,000円以内が最も多く、45.5%、次に2,000~3,000円が18.2%となり、3,000円以上支払ってもよいという人は少なかった。

以上より、今後、西大台をはじめ、大台ヶ原におけるガイド制度の確立に取り組むにあたっては、初心者から自然に詳しい人まで多様な利用者のニーズに対応できるよう、多彩で魅力的なガイドプログラムの開発や、ガイド人材の育成を進めていく必要がある。

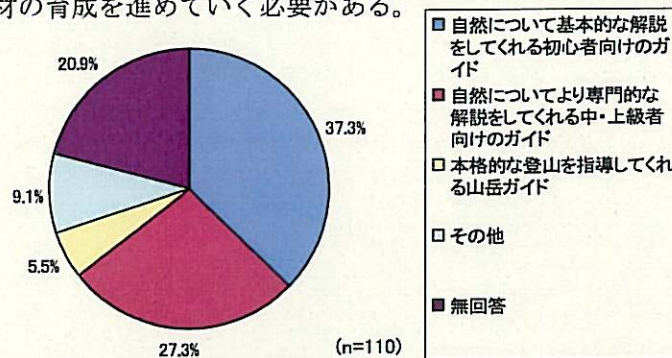


図17 ガイドの内容に対する意向

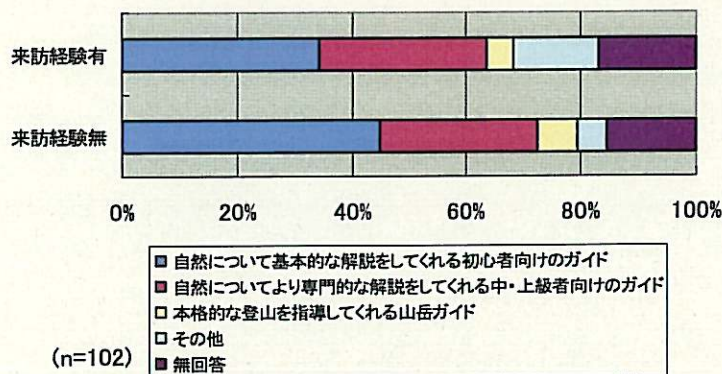


図18 ガイドの内容に対する意向と西大台へ来訪経験

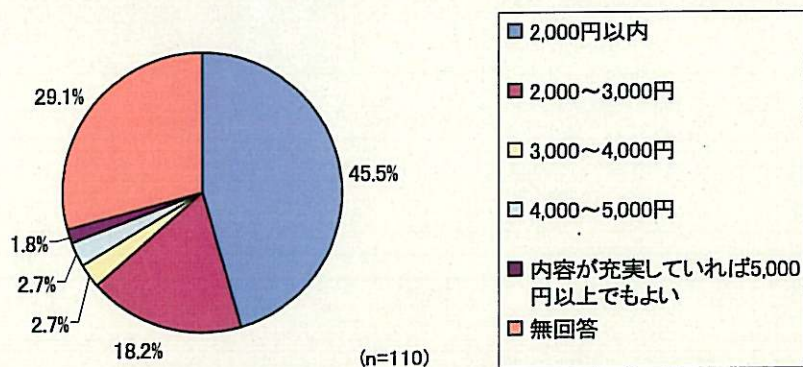


図 19 ガイド料金に対する意向

(12) 利用調整地区制度について

1) 西大台地区における利用調整地区指定の認知

西大台地区で、利用調整地区の指定が検討されていることについて、「知っていた」人が31.8%、「知らなかった」人が59.1%であった。

「知っていた」とする35人に対して、情報の入手先を聞いたところ、「人に聞いた」とする人が最も多く、次に、「環境省ホームページ」が多かった。

以上のように、調査時における利用調整地区指定に関する認知は、まだまだ低いといえる。広範な利用者に対して、利用調整地区の意義や内容について、正確な情報が伝わるよう、今後とも様々な媒体による広報を展開していく必要がある。

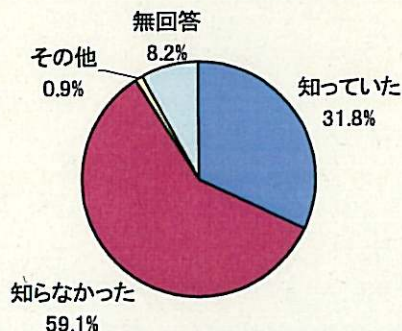


図 20 西大台における利用調整地区指定の認知

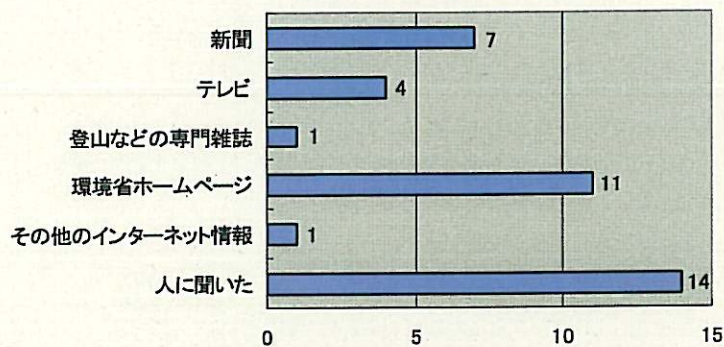


図 21 認知媒体



## 2) 利用調整地区指定後の再訪意向

西大台における利用調整地区の指定について簡単に説明した上で、指定後に再び西大台を訪れたいと思うか聞いたところ、「はい」68.2%、「いいえ」3.6%、「どちらともいえない」20.9%となった。(11)での再訪意向と比べると、利用調整地区の指定を踏まえた場合、「はい」の比率が、若干減少し(75.5%→68.2%)、「どちらともいえない」の比率が増加している(9.1%→20.9%)。比率の変動は大きくはないが、利用調整地区の指定によって、利用者が減少する可能性があることが伺える。

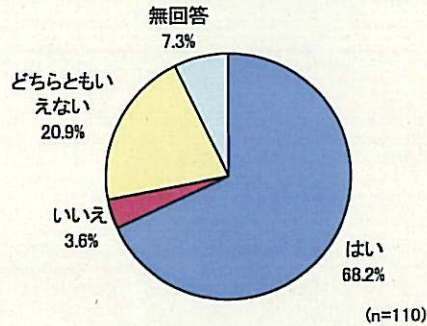


図 22 利用調整地区の指定を踏まえた再訪意向

また、上の質問に「はい」と答えた人(75人)に対し、再び西大台を訪れる際に期待することについて聞いたところ、「原生的な自然の雰囲気を楽しむこと」が最も多く、56.0%、次いで「季節の花や紅葉を楽しむこと」が12.0%、「ブナ林やコケなどを楽しむこと」が10.7%となり、「動物や鳥に出会うこと」を選択した人は無かった。

西大台の利用者は、特定の植物や紅葉、季節の花等の個々の自然の要素というよりも、それらが全体として醸し出す「原生的な自然の雰囲気」に最も期待していることが伺える。

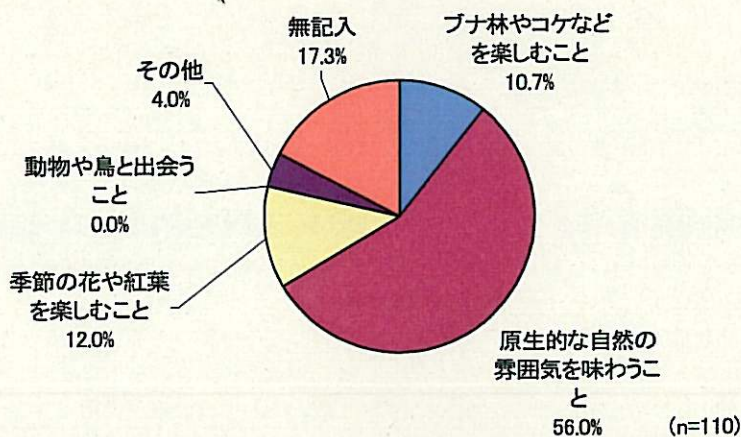


図 23 再訪の際の期待すること

### 3) 利用調整地区の指定に関する意見

西大台における利用調整地区の指定に関する自由意見については、110人中33人の人から回答が得られた。利用調整地区の指定については賛否両論があり、賛成意見では、西大台の自然や静寂性を守る上で意義がある、といった理由が主であった。

一方、指定に反対または疑問を感じるという意見では、規制が必要な程利用者が多いとは思えない、西大台よりも東大台の自然保護を優先すべき、マイカー規制との連携が必要である、等の理由が挙げられている。

その他には、利用申請の際、簡易な手続き等を求める意見、利用者のマナー等に関する意見、過剰な整備に対する懸念、等の意見があった。

利用調整地区の指定に対しては、期待している利用者がある一方、その意義や目的について疑問を持っている利用者も少なくない。今後は、利用調整地区の運営を通じて、利用者の期待に応えていくとともに、その意義や目的、成果について、幅広く情報発信し、利用者の疑問に答えていくことが必要である。

#### <主な意見(抜粋)>

##### ●利用調整地区の指定に賛成する意見

- ・西大台の自然は大変貴重なものだと思います。入山許可申請制とするのは大賛成。個人やグループが勝手に入ると、必ず破壊されます。今日も東大台でコース外に踏み出して写真を撮る不届きな人たちを見ました。西大台のコケや原生林を守りましょう。申し込み順に20~30人を1団体としてガイド1~2名が付いて歩くのがよい。
- ・1日当たりの立入り人数や1パーティ当たりの人数を制限するのはやむを得ない。多人数が入山すると必然的に山が荒れる。多数でぺちゃくちゃ話をしながら歩かれると雰囲気がいなし。入山料を取ってもよい。
- ・俗化し、自然が失われた東大台のようにならない様、今のうちに手を打つべきで、利用調整地区の指定には賛成です。早期に実施を！

##### ●利用調整地区の指定に反対、または疑問を感じるという意見

###### ○規制が必要な程利用者が多いとは思えない

- ・現在の利用者数で「利用調整地区」の指定が必要とは思えない。
- ・人は少ないので、(利用調整地区の指定は)要らない。

###### ○西大台よりも東大台の自然保護を優先すべき

- ・(前略)利用者増による自然環境の衰退は、東大台の方がずっと大きくひどい。(今回4回目訪ねて感じた)従って、東大台こそ利用者の規制が必要ではないか。東大台はだんだん魅力がなくなってきていて、感動が少ない。
- ・西大台地区で利用人数を制限すれば、東大台地区が大幅に増加し、東大台の自然が維持されますか？大台ヶ原全体で考えるべき問題だと思われます。

###### ○マイカー規制との連携が必要

- ・マイカー規制と連動させるべき。上まで道路をつけておいて、歩けないのは酷だ。
- ・西大台だけでなく、大台ヶ原全体を考えるべきだと思う。自家用車の規制(代行バスなど)は当然である。駐車場などの施設は、もっと下に設け、現在の駐車場は廃止すれば良い。

##### ●簡易な手続き等を求める意見

- ・申請すれば写真を自由に撮影できるようにしてほしい。年度単位で許可をしてほしい。

- ・申請の手続きや受付箇所、方法を、簡易かつ幅広い方法で。

●利用者のマナー等に関する意見

- ・歩いている途中でゴミを捨てていたのを見かけた。規制と同様、山でのマナーをも徹底していただきたい。利用人数の規制では、団体（バスツアー等）の受け入れは慎重に検討願いたい。
- ・知識や登山経験があまり無い者は、無意識のうちに自然を荒らしているような気がする。自分もそういった傾向にあり、申し訳なかったと思う。そのため、ガイドをつけたり、もっと保護の必要性や方法を広めていくことは大切だと思う。

●過剰な整備に対する懸念

- ・大台ヶ原全体に人工物が多すぎる。自然保護という名の環境破壊を感じる。木道、鹿除けネット、柵！オーバーユースが問題であれば、ドライブウェイを狭くするのが効果的であろう。
- ・出来るだけ自然のまま残して欲しい。